

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 企業の概要

企業・団体名	ダイドードリンコ株式会社	本社所在地	大阪府
業種	製造業	総従業員数	740名
事業概要	清涼飲料水等の製造・販売		

## テレワーク実施概要

雇用上の規定	テレワーク勤務規程
テレワーク担当部署	人事総務部
テレワーク対象者	ダイドードリンコ社内の全組織に所属するすべての従業員
実施者数	657名
平均実施日数	月8回以上12回未満程度(概ね週2~3回)

## テレワークの導入・拡大の経緯

- 2019年度に育児・介護等の制約がある社員に限定した在宅勤務制度を導入した。
- その後、新型コロナウイルスの流行により会社全体で働き方を見直し、2020年6月から、すべての社員が週3日までの在宅勤務またはモバイルワークをベースとする「新たな働き方」を制度として導入した。
- この働き方はコロナ問題が終息した後も継続する予定である。

## テレワークの概要・特徴

- 制約の有無や雇用形態にかかわらず、すべての社員に適用される。
- 在宅勤務／モバイルワークと出社を組み合わせたハイブリット型が基本。対面のよさ、テレワークの良さを生かしながら生産性の向上につなげている。
- 事務職は在宅勤務ベースのテレワーク、営業職は直行直帰のモバイルワークをベースとするテレワークを行っている。
- 会社から全社員にパソコンとモバイルルーターが貸与されている。個人パソコンや個人のwifiルーターを利用する必要がないため、セキュリティ面での安心感がある。

## テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

- 移動時間が減ったため、結果的に総労働時間も減少し、生産性が向上した。
- 新型コロナウイルスの感染リスクを減らすことができた。
- 新たな働き方に対して従業員の多くがポジティブに受け止めており、エンゲージメントサーベイでの会社に対する信頼度の値が向上した。
- 柔軟に働ける会社として各種メディアで取り上げられる機会が増え、企業の認知度向上につながった。